

一般質問の質問時間は、答弁を除き、1人30分であります。所定の時間内に終わるよう質問・答弁とも簡単・明瞭に要領よくお願いいたします。

また、質問は通告書の範囲内にとどめるようにご協力をお願いします。

通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。〔18番 田原 実君登壇〕

○18番（田原 実君）

おはようございます。田原 実です。

新しい議会の一般質問、トップバッターを務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

以下、通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、地域医療の確保、市民一人一人に寄り添う医療で誰もが安心して暮らせるまちへ。

地域医療の確保に向けては、これまでの一般質問でも取り上げてまいりましたが、今回は糸魚川総合病院への支援策、新型コロナウイルスワクチン接種対応、市民みんなで作る医療のまちづくりについて質問します。

(1) 糸魚川総合病院の樋口清博前病院長が情報誌「まいほすびたる」の中で課題として挙げられたことは、「看護師をはじめとした職員の不足、新専門医制度の開始と働き方改革に備えた医師不足への対応。」、「地域の人口の急速な減少、2000年の5万3,000人から2020年の4万1,000人への減少とそれに伴う人口構造の変化における生産年齢と年少年齢人口の著しい減少によって、病院でできることが少なくなってきた。」、「今後も生産年齢人口の減少は進行する。地元の医療従事者を確保し、糸魚川総合病院の機能を時代に合わせて変えていく必要がある。」、「地域住民に密着し、その必要とするところを実現していく必要があり、そのためには皆さんの力が必要。」とのことでした。以上の事柄を踏まえ、以下糸魚川市の対応を伺います。

- ① 糸魚川総合病院の一番の課題である看護師と専門スタッフの確保。
- ② 糸魚川総合病院と富山大学とのつながりの強化による医師の確保、救急医療体制の維持、市民の望む診療科確保。
- ③ 先進医療への対応と市外からも来てもらえる医療水準の維持・確保。
- ④ スタッフのキャリア形成に資する教育・研修環境の充実。

(2) スムーズで安心・安全な新型コロナウイルスワクチン接種について、以下、糸魚川市の対応を伺います。

- ① 高齢者や持病をお持ちの市民に配慮した個別接種の推進。
- ② 集団接種における様々な課題と対応。
- ③ 医師・看護師への負担と対応。
- ④ 新型コロナウイルスワクチン接種を希望する市民への早期接種、100%接種。

(3) 医療従事者への感謝を忘れず、看護師育成に取り組み、明日の医療を守る取組を子供から大人まで市民みんなが進めまじょうと、この場から改めて訴えさせていただきます。具体的

には「ブルーリボン市民運動」や「医療感謝の日」などの実施を提言します。市長、教育長のお考えを伺います。

2、地域経済の循環をつくる林業振興と新たな産業の創出、糸魚川産木材の生産、加工、販売、建設が連携し、潤うまちづくりの実践について。

(1) 第2次糸魚川市総合計画に定める林業振興の具体的な施策と指標について、新たな産業の創出との関連について伺います。あわせて、令和3年度の林業振興の予算と具体的な事業展開について伺います。

(2) 森林環境税を財源とする森林環境譲与税は地方自治体が行う森林施業や人材育成・担い手確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用に充てるとされています。糸魚川市の主要な事業と目標値は明確になっていますか。また市民にとってのメリットは何ですか、伺います。

(3) 林業振興と新たな産業の創出における官民連携、事業者間連携の現状と課題について伺います。また具体的な事例があれば、ご説明願います。

(4) コロナ禍で社会構造が大きく変化する中、世界的な「ウッドショック」が発生し、国内の建設業への影響が予想されます。一方、糸魚川では、少子高齢化で住宅建設も減る傾向にあります。その現状において林業振興を進めるには従来の枠組からのイノベーションが必要です。事業者の意識改革、木材を活用する新たな地場産業の創造、市内消費喚起を進める戦略と実践が必要です。私は、木造工法の優位性、木造建築のデザインのよさ、地場産木材で建てる楽しみなど、糸魚川で木造住宅を建てるメリットをクライアントにプレゼンテーションする能力と機会が必要と考えます。そのための人材育成の仕組みづくり、サポートする行政の意識改革や支援制度の強化も求められていると思います。市長のお考えを伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原 実議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、今年度から看護職を目指す学生への支援として、修学補助を新たに設けており、今後も病院と連携しながら看護師確保に努めてまいります。

2つ目につきましては、今後も要望活動等を継続し、連携強化に努めてまいります。

3つ目につきましては、病院に併設された膵臓・胆道サテライトセンターについては、他の医療機関にはない特色の一つであり、今後も関係機関と連携し、医療水準の維持・確保に努めてまいります。

4つ目につきましては、認定看護師等の高度な資格取得など、医師・看護師の研修費等について、支援を継続してまいります。

2点目の1つ目につきましては、かかりつけ医において安心して接種ができるよう多くの開業医の皆様から、個別接種のご協力をいただいております。

2つ目につきましては、安全管理や感染予防、人員確保など、様々な課題について関係機関と協議をし、対応しております。

3つ目につきましては、通常業務を行いながらワクチン接種となり、多くの負担がかかることから、会場設営や人材派遣などにより、医療従事者の負担軽減に努めております。

4つ目につきましては、医師会をはじめ関係機関との連携の下、市民の皆様にも少しでも早くワクチン接種ができるよう一丸となって取り組んでまいります。

3点目につきましては、通常の診療に加え、ワクチン接種など、医療従事者の皆様には、多大なご苦勞をおかけしており、心から感謝申し上げます。今後も医療フォーラムなどを通じ、市民に周知し、機運を高めてまいります。

2番目の1点目につきましては、木材の安定供給には経営の安定と担い手確保・育成が重要であり、需要拡大や利用促進には、新たな利活用が必要であると考えております。令和3年度は、森林経営管理推進事業や地場産材利用拡大事業のほか、住宅建材の共同開発を支援し、林業振興につなげてまいります。

2点目につきましては、森林経営管理推進事業により、今年度、施業に入る予定であり、目標値は、これらの実績を踏まえ、設定してまいります。メリットは、管理が行き届いていなかった森林が整備され、本来の機能が発揮することと考えております。

3点目につきましては、林業の現状や森林資源の活用について、林業関係者や市民と共通認識を持つことが重要な課題であると考えております。昨年度から、他業種の参画による、緑でつなぐ未来創造会議が活動されており、今後も連携して進めてまいります。

4点目につきましては、国の温室効果ガス削減目標の引上げを契機に、森林の役割に対する市民の理解を深め、伐採、利用、植林、育林の循環が、重要と考えております。今後も関係機関・団体等と連携し、必要な支援を行ってまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

再質問は、順番を変えて、質問2を先にお願ひします。

基本的なところで、伐採期を過ぎた木が、なぜ切り出されないのか、市内で加工され、流通しないのか、工務店が仕入れないのか、建て主が使おうとしないのはなぜか、その理由・原因について伺います。

次に、森林施業や人材育成、担い手確保、木材利用の促進や普及啓発に向けて、市の取組はありますか。環境贈与税をきっかけにした今後の取組は、何ですか、伺います。

答弁が長くても結構です。この機会に整理して、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

おはようございます。

お答えします。

林業においては、木材の流通経路を川の流れに例えまして、川上、川中、川下と呼んでおります。

川上は、素材生産者、森林組合になりますが、急峻な地形のため運搬費が高いこと、川中に当たる製材業者は、小規模事業者が多く、自然乾燥のため作業効率が悪いこと、川下に当たる工務店は、色味や節が多いことなどにより、建材として敬遠されてきたことが上げられます。

市としましても、糸魚川産材の購入費助成や新規参入、事業強化を支援してきたところであります。今後は、森林経営管理制度により、森林整備を進めてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

（2）環境譲与税の効果を伺います。

市の事業が、市民のメリットに、特定の市民だけでなく、多くの市民のメリットになるように進めていますか。

また、環境譲与税の用途について、適正に用いられることが担保されるようインターネット等で公表しなければならないとされていますが、その点も伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

森林管理制度は、所有者の森林管理の責務を明確化した上で、市町村が所有者に代わって、管理できない森林の経営管理を受託できる制度でございます。

市長の答弁にありましたとおり、管理が行き届いていなかった森林が整備され、森林本来の機能が復活することにより、市民全体のメリットにつながるものと考えております。

公表につきましては、予算参考資料の中に明記しておりまして、市ホームページで公表しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

（3）について伺います。

今回は、官民連携の在り方や事業間連携に深く入り込むことはしませんが、林業の、いわゆる川

上、川中、川下での事業者や団体の役割、行政の役割、それぞれの責任が明らかにされ、理解され、協力関係ができていくかについて伺います。

なお、緑でつなぐ未来創造会議、通称、3M（さんえむ）の資料は、議員各位に届けてあります。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

議員さんのお手元に、このリーフレットが届いているかと思えます。緑でつなぐ未来創造会議、通称、3Mと呼んでおりますが、糸魚川産業創造プラットフォーム事業の一つでありまして、森林資源に関わる企業が参画し、それぞれの得意分野や専門分野を生かしながら、業種の垣根を取り払って、実践的な成果につなげていこうと活動されております。その活動に対しまして、市、県、それから商工会議所等も官民連携で取り組んでおるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

3Mに期待するものであります。

ただ、3Mの会議の結論を誰が実践し、経済の循環をつくるのか。

かつては、糸魚川も木材の生産、加工、販売、建設で潤う町でしたが、今は形が変わって、もう昔には戻れません。糸魚川で新しい技術、新しい価値、新しい産業を創出することはできますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

3Mに参加していただいている方は、自ら実践することを前提に参画しておられます。新しい技術、価値、産業が創出できるよう市も連携して取り組んでまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

林業と建設について伺います。

糸魚川市の最近の木造住宅の数と傾向について、また、木造住宅1軒当たりで使われる木材の量と、それが地場産の杉である場合の金額、木材費、木材の加工費、現場への搬入と組立てに係る工事費は、ご存じですか。もし分かれば、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

新築・改築の建築確認申請件数は、近年、年間80棟前後と減少傾向でございます。

木造住宅1棟当たりの木材使用量は、資料などからの推計で、延べ床面積120平米の住宅の場合、木材使用量は約24立米、地場産杉の建材価格につきましては、約250万円と試算しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

そうしますと、この木造住宅を建てていこうとした場合の地元での経済効果、これがどのくらいなのかということ算出してみる必要がある。

一方で、伐採して使わなければいけない杉が、市内でどれだけあるのか。それで木造住宅が、何棟建てられるか。その杉を使っていくと、何年かかるか試算して、計画を立ててみる必要があると思います。

つまり、糸魚川の利用すべき森林で、どのくらいの家を建てていく、何年かかってどのくらいの経済効果が出るか、そういったことを今まで検討したことはありますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

杉の資源量は、概算で約160万立米、そのうち建材として利用可能な分は約12万立米で、延べ床面積120平米の住宅を建築した場合、5,000棟分となります。仮に、年間100棟建築した場合には、50年分と推計しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

ありがとうございました。

そういったことで、川上、川中、川下をつないで、これが市民にメリットが出るような形で、行政の各課担当で話し合っ、地域経済の循環をつくる林業振興、産業の創出を考えていくべきではないか。

この全体をコーディネートするのは、行政ではないかと思いますが、いかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

経済効果につきましては、試算はしていないんですが、地域外から調達している建材分の経費というものが、市内で賄われることによって、経済効果につながるというふうに考えております。

行政ということなんですが、引き続き、行政だけでなく、関係機関・団体、それから庁内の関係課と連携しまして、地域経済の循環、林業振興に努めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

分かりました。よろしくお願いいたします。

（４）では、戦略と実践が必要と提言しました。地場産材で住宅を建てるメリット、木造工法の優位性、木造建築のデザインのよさをクライアントにプレゼンすることが大切、人材育成の仕組みが必要と提言しました。

まずは、糸魚川の木のよさを知ってもらい、そのよさを誰が誰に、誰から誰へ伝えていくか、整理してみる必要があります。あえて、糸魚川の木を使うことで得られる満足感は何かをよく研究して、そこへ至るストーリーを徹底して検証してみる必要があります。

市民がふだんから森林を体験したり、木を用いる生活の楽しさを知るために、木で遊んだり、工作したり、建築の作業現場を体験したり、木や木材を身近に感じる環境をつくることも行政の役割と思います。

もう一つの行政の役割は、地場産材で建築する市民への直接的な支援を手厚くする。例えば通年で補助金を出すことや、消費喚起の情報発信を強化することだと思えます。

以上、行政の対応を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

議員おっしゃるようにストーリーがあるか、また、そのストーリーに共感していただけるかどうかというのは、販売する際の重要なポイントでありまして、3Mの中でも話し合われている事項でございます。

また、市では、小学校での森林、林業教室の開催をはじめ、県や関係機関と連携し、県内の建築関係者を対象にした糸魚川産材の視察ツアーを開催しております。

今後も関係機関と連携しまして、木に親しみ、学んでいただける場づくりに取り組んでまいります。

支援制度につきましては、現在の制度を検証しながら、使いやすい制度となるよう必要に応じて見直ししてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

最後に1つ、例を出して、今後の市の取組を聞きたいと思いますが、先ほど出ました3Mの取組に地場の杉材で作る重ねばりがあります。これがその重ねばりのサンプルです。

設備投資がなくても作れて、ウッドショックで価格が高騰した米松の集成材の代わりに、需要が見込めると考えます。

優れたところを申しますと、太くない木から大きな断面の構造材が作れます。木の腐りなどの欠点を除いて、見た目のよい、強度のばらつきのない建材になります。安い製品の材料だった原木を使って、このような建材となることでランクアップし、価格を高くできます。原木の価格が上がれば、それが山林の所有者に還元されて、それで森林整備は進みますといったところでしょうか。

そのよさを知って、伝えて、需要を伸ばすには、まずは、市の発注する施設、例えば駅北復興まちづくりの子育て施設の設計に入れる。あるいは、これは私の希望ですが、えちご押上ひすい海岸駅、上越方面ホームに隣接する施設を建設するとき全面的に使っていただくなど、進めていただきたいと、私から提案しますが、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に新たな地場産材の展開というのを見いだしていただいたと思っております。それによって、さらに糸魚川産材の魅力というのは発信できますし、また、公共事業においても積極的に取り組んでいけるのではないかなと思っております。非常に構造材の、また、この変化ができることによって、木材の建築に可能性が増えていくのではないかなと思っております。非常に構造材の、また、この変化ができることによって、木材の建築に可能性が増えていくのではないかなと思っております。非常に構造材の、また、この変化ができることによって、木材の建築に可能性が増えていくのではないかなと思っております。非常に構造材の、また、この変化ができることによって、木材の建築に可能性が増えていくのではないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

市長、ありがとうございました。よろしく願いいたします。

では、質問の1に戻りますが、地域医療の再質問は、（2）新型コロナウイルスワクチン接種から伺います。

新型コロナウイルスワクチン接種を、以下、ワクチン接種、もしくは接種と略しますが、よろしく願います。

まず、医療従事者に100%の接種ができましたか、確認します。

次に、高齢者、介護福祉施設の関係者、訪問看護、介護の用務に携わる方へのワクチン接種はいかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）



渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

市内の医療従事者につきましては、当初予定していた約1,000人の医療従事者につきましては、100%接種が完了しております。

それから、高齢者施設の関係でありますけども、7月中に接種を完了する予定にしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

今は各自治体が工夫して、ワクチン接種を進めています。

12日の新潟日報に、妙高市は65歳以上の集団接種を7月24日に終了し、27日までに施設での接種も終えるスケジュールを発表しました。

対象者は2万8,797人、高齢者接種の進捗状況は、2回目接種を終えた人の割合が27.6%とのことです。

16日の新潟日報には、高齢者人口6万1,500人の上越市の1回目の接種率が、個別と集団を合わせて希望者全体の90.2%、2回目を終えた人は15.4%、それと比較して、糸魚川の接種状況を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

6月17日時点でございますけども、高齢者の1回目の接種は6,450人、2回目の接種が1,511人、合わせて7,961人となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

接種率については、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

39%になります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

確認させてください。

接種対象者は何人ですか。

昨日までのかかりつけ医での実績数、1回接種、2回接種の数、能生国保診療所での実績数、1回接種、2回接種の数、糸魚川総合病院での実績数、1回接種、2回接種の数をそれぞれ報告願います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

6月16日現在で、今1回目、2回目とご質問ですけれども、累計でご説明しますが、糸魚川総合病院の累計が3,785、能生の国保診療所が1,035、個別接種が、いわゆるかかりつけ医が2,500というようになって、合計で7,320となっております。

〔「かかりつけ医をもう一回お願いします」と呼ぶ者あり〕

○市民部長（渡辺成剛君）

かかりつけ医につきましては、2,500でございます。

〔「対象の数は」と呼ぶ者あり〕

○市民部長（渡辺成剛君）

高齢者の対象者数は、1万6,500人であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

7月までのそれぞれの場所での接種計画を伺います。

かかりつけ医14か所での接種枠は幾つ、能生国保診療所での接種枠は幾つ、糸魚川総合病院での接種枠は幾つか、教えてください。

まとめに、7月末までに糸魚川全体で高齢者のワクチン接種がどれだけ進むのか、数値でお答えください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

7月末までの見込みですけれども、糸魚川総合病院の合計が、約1万6,000ほどになります。

能生国保診療所の接種回数が、約4,000になります。

個別接種、いわゆるかかりつけ医が、1万2,700ということで、合計しますと3万

3,000程度の、今、接種枠を設けているところでありまして、7月末までに希望する方については、枠としては確保できているという状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

3月議会での一般質問で、私は、持病をお持ちの方は、かかりつけ医でのワクチン接種が望ましいと申し上げました。渡辺部長は、そのときワクチン接種の体制の確保について、糸魚川医師会と糸魚川総合病院と非常に入念な打合せをして、あらかじめスキームは確立されており、微調整をした上で、いつ、どこで、どうやって打てるかというものを情報としてしっかりと出していきたいと答弁しました。それができていますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

これまでも、その後、広報おしらせばん等を使いまして、全体の流れはこうだと。糸魚川総合病院の様子、それから、その中では糸魚川総合病院の院長等にもインタビューするような形で載せていただいておりますし、個別機関につきましても、おしらせばん等で周知させていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

そう思えないんですよ。それで、今日、質問させていただいてるところであります。

7月で、高齢者のワクチン接種が終わるということによろしいでしょうか、確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

接種枠として、全体としては終わる数字で今、数量を確保しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

では、集団接種について、詳細を伺います。

様々な課題が、現場から出ていると思います。

ただ、ワクチンを打つのは人ですから、その負担をチェック、検討し、負担を軽減する工夫するのは、市役所担当課です。接種のペースを上げるために計画を変更する際、現場のミスが起きないように、無理のない接種の計画となっているか、確認したいので伺います。

現場の医師と話し合っていますか。

医師と看護師が何名現場に配置されますか。

休日もなく接種することの負担は、いかがですか。

受付、問診、接種、経過観察の時間とスペースは、無理なく安全に接種できることが確認されていますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

集団接種の会場ということよろしいでしょうか。

糸魚川総合病院を例に出しますと、今、毎日270人の方に接種いただいております。

この270人の接種に対して、従事する方は、合計で28人いらっしゃいます。28人のうちの8人が、糸魚川総合病院関係の関係者の皆さん、残りの20人が、受付等に伴う従事者ということで、病院と市が連携しながら進めさせていただいてるところであります。

田原議員おっしゃったように、一番大事なのは、とにかく正確にやっていくということだと思っております。我々の今現在、接種につきましては、医療機関を中心に実施しております。もし何かあったときに適切な対応ができると。糸魚川総合病院でいえば、糸魚川総合病院で接種をすれば、救急外来まで2分ぐらいで行きますので、より安心して接種できるような体制を糸魚川総合病院、また、医師会の皆さんもここで参加いただいておりますので、医師会、そして医療従事者の皆さんと相談しながら、4月の20日から接種を進めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

かかりつけ医での対応について、今伺いましたけども、かかりつけ医の予約は、もうすぐに7月いっぱいまでいっぱいになって、8月にずれ込むという状況だったんじゃないですか。そのことを市民は知ってますか。それで、あふれた方は、集団接種の会場のほうへ、言葉は悪いけど回されてしまうわけでしょう。そういった状況が、市民は知ってるかということ、私先ほど尋ねたんですよ。もう一回伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

かかりつけ医の状況につきましては、医師会等いろいろな相談をする中で、今現在の形にさせていただいているところであります。

ただ、いずれにしても、かかりつけ医を選んで、糸魚川総合病院というような方もいらっしゃると思いますが、総合トータルとして、1人でも多くの方がワクチン接種を受けられるように取り組んでいるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

国保診療所のスタッフが何名か、教えてください。

少ないスタッフでワクチン接種が忙しく、ミスが出ないか。例えば報道でワクチンの保管ミスから、無駄にってしまったことなど報じられていますが、保管のダブルチェック等、大丈夫かなど、つい心配してしまいます。

また、接種会場は、密になりませんか。国保診療所の接種収容人員を教えてください。接種する方が座る椅子の間隔は幾らですか。国保診療所は、一見広いようですが、1人当たりのスペースと時間から、どのぐらいの接種ができるか。そして、最終的に国保診療所では、いつまでに何名に接種しますか、いま一度伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

国保診療所に従事する方の合計数は、12名であります。このうち7名が、診療所の職員、残り5名が、それ以外、受付等で従事している職員であります。

今、国保診療所でございますが、今週は、平日が午後55人、日曜日が1日110人の接種体制を組んでおります。今後、増やすことによりまして、平日は140人、日曜日につきましては120人という形に持っていく予定にしております。

高齢者につきましては、延べ、先ほど言いました4,000回ぐらいの接種が行われる見込みであります。

接種ですけれども、受付を入りまして、中に入ります。今、廊下がありますけれども、廊下の中に椅子を置きまして、約2メートル間隔ぐらいでしょうか、置きまして、椅子に接種される方が座っていただいて、看護師が回って行って、打っていくと。接種される方にすると、一旦座れば、経過観察までずっとそこにいられるというやり方をやらせていただいております。

ただ、接種数が増えてきて、また、接種スピードを上げていく中では、国保診療所の会場だけではどうなのかという今議論をしております、他の場所での接種ということについても、今検討を加えているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

糸魚川総合病院での集団接種について、いま一度伺いますが、土日の接種で数をこなしていくということなのでしょうけども、土日は、病院はワクチン接種を行わず、介護施設などこのスペースを使って、開業医の医師、看護師、スタッフでワクチン接種をするとのことですが、詳細を説明してください。

あわせて、最終的に糸魚川総合病院となでこのスペースで、いつまでに何名に接種しますか、いま一度確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

糸魚川総合病院では、基本的に医師等の働き方改革のこともありまして、平日、月曜日から金曜日、今270人、毎日打っている体制を組んでおります。こうした中で、7月末の接種を完了ということがありまして、土曜・日曜も接種をしようではないかということで、ここは市が運営するというので、糸魚川総合病院から施設を借りて、市が運営することにしております。

その場合の接種体制ですけれども、今の現状の28人ですか、そういった数字を基本にしながら、ほぼ通常と変わらない状態でやっていきたいというように考えております。

それから、接種総数でありますけれども、おおむね1万6,000回ぐらい、人数にしますと割る2ですので8,000人程度、糸魚川総合病院で高齢者については実施したいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

糸魚川市での予約方法については、電話、インターネット、そして、後で、はがきでの予約を追加しましたが、これが市民にとって望ましいものか。問題や反省点はないか伺います。

聞いた話で恐縮ですが、はがきを出したが1週間たっても返事が来ないので、また、ネットで予約し直した方がいたとのこと。なぜそうなったのでしょうか、伺います。

また、ネット予約は、高齢者には難しいことは、初めから分かっていたので、私が以前、担当課に内々に市役所や能生・青海事務所のロビーにネット予約の窓口を設けて、市の職員が予約の代行をすることを提案したのですが、やっていただいております。どこかの市でやって、市民の安心につながっていますよね。予約の見直しと取組はいかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

はがきにつきましては、ご指摘のとおりであります。私どもが、いつはがきに対する返事をするかということを明確に示せなかったと、これが反省点だというように思っておりますので、今後、改善をして、対応してまいりたいと思っております。

それから2番目の、いわゆる対面での対応でございますけれども、それについても検討しました。

しかしながら、検討している中で、5月10日以降、糸魚川市でも感染者が5月10日から今、今日まで15件発生しております。こういう感染者の状況を踏まえる中で、対面での受付というのは、なかなか難しいだろうということで、はがきによる対応をさせていただいたところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

はがきのことで、改善と対応をするということですが、いつ、どのようにされるのか、また、対面はなかなか難しいとおっしゃいますけれども、困ってる人に市の職員がちゃんとサポートすることのほうが大切じゃないですか。早く接種を、安全な接種をしていただいて、コロナを収めることが大事なんじゃないですか。どっちが優先されるんですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

どっちが優先かという、まさにどちらもだというように思っておりますが、はがきでは約1,300人の方が来ました。もし対面でやって、1,300人の方が来られると、やはり相当な混雑になってきたのかなというように思っております。その辺りも含めながら、どういうやり方で64歳以下をやっていけばいいか、検討しながら進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

検討しながら進めてまいりたい。行政側の決まり文句のようにありますけれども、1日1日進んでるわけですね。早く対応しないと、スムーズで安心・安全なワクチン接種、進めていただきたいんですよ。いつまでに、どのように、決めて、市民にどのように伝えますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

菅総理が、ワクチン接種の完了時期を10月から11月に実現するようというような発言もござ

いました。それを念頭に進めていきたいというように思っておりますが、いずれにしましても、早期のワクチン接種につきまして、医師会や医療機関の皆さんと連携しながら、少しでも早く市民の皆さんが打てるように取り組んでまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

今のお話のとおりなんですけども、行政は、焦って集団接種枠を増やそうとしたのではないかと。市民は、それを望んでいるかどうか。例えば国保診療所の近くの方は、近くの医療機関で安全にワクチン接種をしたいということがあるのではないかと。むしろそれこそが、優先されるべきではないかと私は思うんですね。ワクチンの接種体制の見直しということで伺いますけども、やはり今の能生の地区の住民の方、そして、国保診療所でのワクチン接種、こちらのほうを優先するとか、いま一度、今の時点で早く見直しをしていくべきではないかと思っておりますけども、いかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

全体として早くやっていくということと、かかりつけ医でやっていくというのは、なかなか矛盾する点というのが出てきようかと思っております。

ただ、いろんなことがあっても、とにかくコロナを収束させるということにおいては、できるだけ選択肢を広げながら、多くの方から一日も早く打っていただくということを基本に進めたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

基本的な考え方はそうでしょう。

ただ、具体的な部分では、例えば糸魚川の方が国保診療所に行って、接種をして、枠をどんどん埋めていってしまって、そして、地元の能生の方が、そこに入れない。それで糸魚川のほうへ来なきゃいけない。何か本末転倒のような気がしませんか。そういったところを今の時点で見極めて、早く変えるものは、変えたほうがいいんじゃないかと、こういうことを申し上げてるんですね、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）



お答えします。

今の件につきましては、先日からコールセンター、いわゆる予約センター、それからインターネットにおきましても、まず、どこにお住まいですかと聞いた上で、今、田原議員のおっしゃるような対応を進めております。

ただ、一方で、糸魚川の方で能生の国保診療所にかかりつけがあるという方もいらっしゃいますので、その辺りは柔軟に対応しながら、ある意味その部分では、なるべく課題に対応しながらやっているとございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

よろしくをお願いします。

64歳以下の市民への接種の予定と進め方について、改めて伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

64歳以下の皆さんの接種券を6月下旬以降に段階的に発送し、随時、予約をいただく予定としております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

せっかくの機会なので、もう少し詳細にご答弁いただけませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

64歳以下につきましては、基礎疾患をお持ちの方が、その中でも優先されます。その取組のスキーム、それから、64歳以下で基礎疾患のない方につきましては、段階的というのは、これまで5歳刻みにお送りさせていただきましたけども、60から64歳の方をお送りして、次に、55から59歳の方をお送りすると。段階的に接種券をお送りしながら、個別の医療機関でも混乱のないように進めてまいりたいと考えております。

加えてであります、職域接種が、今、国からも6月に考え方が示されました。糸魚川市内では、今デンカさんが職域接種ということで、従業員数にしまして2,200人程度につきまして接種を進めたいということをお聞きしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

65歳までの高齢者の方の接種の状況見まして、それで上越市、妙高市と比較して、糸魚川の接種がいかなものなのかと。やっぱり感じるところがあるわけですよ。ですので、64歳以下の接種はどうなんだというように聞いているわけですね。しっかり取り組んでいただきたいと思いますが、新型コロナウイルスワクチン接種を希望する市民への100%接種についても伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

医師会をはじめ関係機関との連携の下、市民の皆様にも少しでも早くワクチン接種ができるよう一丸となって取り組んでまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

市民への周知が不足していると、私先ほど申し上げました。ここをやっていただきたい。どのように取り組まれますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

次の6月25日のおしらせばんでは、2ページにわたりまして、64歳以下の接種について、出していきたいと思っております。

それから、その前段でありますけれども、基礎疾患等につきましても、インターネットやホームページ、安心メール等を使いながらやっていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

市民が不安に感じないようなワクチン接種、ぜひ進めていただきたい。よろしく申し上げます。質問1の（1）に戻り、看護師と専門スタッフの確保について、再質問します。

糸魚川総合病院の新しい病院長、山岸文範先生が、情報誌、医療福祉連携センター便りの中で、

少子高齢化の大きな津波は、経験したことのない労働人口減少という悪夢を全国にもたらし、患者さんよりも先に看護師を中心としたスタッフの募集が、困難になりつつあると指摘しています。

私は、看護師の慢性的な不足を、これまでの議会で訴え、市長からは看護師確保と育成の支援に取り組んでいただいています。こういった中、今年、厚生連から新卒で11名、中途採用で1名の看護師を糸魚川総合病院に配置していただいたことは、ありがたいことです。

しかし、看護師不足への対応は、これからも必要です。どのような対策を立てて、実施していただけますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

看護師をはじめとする医療従事者の確保や育成につきましては、小中学生への出前講座、それから高校生の1日病院体験などによりまして、今、啓発活動を行ってまいりました。今回、糸魚川総合病院に配属されました新人看護師12名のうち、本市出身者が7名ということで、今までの取組の成果が現れたものというふうに捉えております。時間はかかりますけれども、引き続き、小・中・高校生が、看護師を志すような啓発活動を行うとともに、修学資金等の支援に取り組みたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

看護師以外のスタッフ確保について、伺います。

スタッフ不足が続くと、病院では、今できている医療をやめざるを得なくなったり、今後、需要が増す慢性期医療への対応ができなくなることが心配されます。

慢性期医療は、市民からの要望もあるリハビリをはじめ、認知症、ターミナル、在宅医療など、市民の生活に寄り添う医療として、高齢化率の高い糸魚川では、特に必要なものであり、現場を担うスタッフ不足への対応は、糸魚川総合病院や地域の医療機関だけの課題ではないと思います。スタッフ確保について、行政はどのような対策を立て、実施していきますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川総合病院におきましては、看護師確保が一番大きな課題であります。

しかし、薬剤師だとか、その他の職種についても不足しているというふうに伺っております。

また、病院では、定着していただくことを考えれば、地元の方からより多く就職していただきたいということでもあります。医療人材の確保につきましては、地域医療を維持する上で、最も重要な課題として認識しており、小・中・高校生への啓発活動、修学資金等の支援、さらには糸魚川総合病院で取り組み始めました働き方改革への支援など、病院関係者、それから高等学校等の進路担当

者、地域振興局などと課題を共有する中で、引き続き、取り組んでいきたいというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

次に、医師の確保策について伺います。

糸魚川総合病院と富山大学とのつながりの強化で、市民の望む医療を糸魚川で受けられるように市長に取り組んでいただいていることに感謝申し上げます。

まいほすびたるの中で、昨年4月、富山から赴任された整形外科の長田医師が紹介されていますが、糸魚川の医療環境について、聞き取りをして、行政から支援できることを把握してありますか。

また、5月22日の糸魚川タイムスに病院と大学の連携で、最新の心不全治療と題された富山大学循環器内科、絹川教授の紹介があり、最新のカテーテル治療と救急搬送の解説がありました。先進の循環器内科医療が糸魚川でできることは、市民の望むところです。行政から支援できることを把握してありますか。

もう一つ例を出しますが、米田市長から紹介のありました富山大学のサテライト医療、膵臓胆道センターの取組と実績について、この機会に紹介してください。

私は、膵臓胆道センターのような先進医療への対応は、市外からも来てもらえる医療水準の維持・確保につながるもの、研修医や医師確保につながるものと考えます。ここへ、行政から支援できることを把握してありますか。

以上、3点について伺いますが、よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川総合病院へ医師を派遣していただくために、富山大学病院に市と糸魚川総合病院で協力しながら、丁寧な要望活動を続けております。

また、これまで大学連携臨床研究支援事業だとか寄附講座などを行っておりまして、これらの成果として、医師を派遣していただいとるというふうを考えております。

それから、循環器の疾患については、重篤な場合には命に関わり、引き続き、治療に携わる循環器内科医師の維持・確保に向けて取り組んでまいります。

膵臓胆道サテライトセンターにつきましては、富山大学から内科医と外科医の教授お二人をお招きし、先進的な医療を提供しており、市外からの利用もあるというふうにお聞きしております。糸魚川総合病院の医師も、先進的な医療を習得する機会となって、研さんに励んでいるというふうにお伺いしております。

市としましては、サテライトセンターの利用促進、それから、膵がん、胆道がんの早期発見、早期治療を目的に、膵がん・胆道がんドックの費用助成を行っているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

ありがとうございました。糸魚川総合病院での研修医の確保策、医師育成と医師定着への取組について、最新の糸魚川市の取組の現状と成果について、担当課よりご紹介願います。

あわせて、医師の働き方改革への備えについて、どう取り組んでいくか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川総合病院へは、毎年3名程度の臨床研修医師の応募があり、2年目の研修医と合わせまして、6名程度の研修医が今在籍しております。

市としましては、研修医の受入れ経費について支援をしており、県内では研修医を応募・募集しましても、研修医が集まらない病院というのも実際はあるようにお聞きしておる中、毎年、研修医の応募があるということは、これまでの成果というふうに捉えております。

また、先ほどもお話ししましたが、糸魚川総合病院では、2024年に始まります医師の働き方改革に向けて、院内で取組を始めております。医師の定着にもつながるといふふうに考えられますことから、これについても引き続き、支援をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

では、（3）医療従事者への感謝を忘れず、看護師育成に取り組み、明日の医療を守る取組について、再度伺います。

ふだんより苦勞の多い糸魚川の医療従事者の皆さんが、今さらに休日返上で頑張っています。市民みんなで感謝を表すことが必要ではないでしょうか。

私が今、胸につけているブルーのバッジは、コロナウイルス治療に尽力する医療従事者への感謝の気持ちを表します。医師、看護師を敬い、地域医療を守る印のバッジをみんなでつけませんか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

議員おっしゃいますように医療従事者は、今通常の診療業務に加えて、ワクチン接種業務を担って大変多忙であるというふうに承知し、感謝しております。

感謝の表し方というのは、いろんな方法があると思いますが、市民一人一人の感謝の気持ち、それが伝わるということは、医療従事者の励みにもなってくるんだというふうに理解しております。具体的にありましたブルーリボンによる感謝の気持ちを表すこと、これも一つの手段であるという

ふうと考えております。

一番最初、市長が答弁いたしましたように医療の現状を、まず、市民にお伝えし、医療従事者へ感謝する、その機運を盛り上げていきたいというふうと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

フローレンスナイチンゲールの誕生日で、看護の日の5月12日を糸魚川市の医療に感謝する日と定めて、毎年、市民会議を開き、看護師の育成・確保の手厚い支援策を市民、医療従事者、行政で一体となって進めることを確認していきませんか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

答弁の繰り返しになりますが、医療従事者への感謝を表すということは、大変重要だというふう感じております。

したがいまして、先ほども言いました、まず、医療の現状を市民にお伝えし、そして、感謝する気持ちを盛り上げる。それが一番大事だというふうと考えております。

また、そういう機会としまして、地域医療フォーラムというのが毎年、開催しておりまして、そういう機会を捉えながら、市民とともに考える機会を設けてまいりたいというふうと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

糸魚川市の医療に感謝する日、ぜひ進めていただきたい、お願いします。

子供たちにも、そういった気持ちを持って、育っていただきたいと思います。

学校での取組はいかがでしょうか、教育長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

医療従事者への感謝の気持ちを持つというのは、本当に今おっしゃるとおりだというふう思っています。

ただ、私の立場としては、医療従事者だけでなく、あらゆる職種に勤めておられる方について、感謝の気持ちを持つということになるかと思えます。その中で、医療従事者も含めて、全ての職種の方について、感謝の気持ちを持つ。このことをキャリア教育の中で進めてまいりたいというふ

うに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

いつもどおりの答弁でしたね。

地域医療の確保のためには、医師、看護師、医療従事者の確保は、医療機関だけではない、行政、教育、市民が連携する、市全体で取り組む医療のまち、糸魚川市を実現しましょうと、私は訴えてきました。道端に立ち、旗を持ち、思いを伝えてまいりました。これからも議会で訴え続けます。

選挙で市民に選ばれた米田市長からは、その先頭に立って歩んでいただきたい。改めて、市長の決意を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、非常に糸魚川総合病院の位置づけというのは、ある程度確保されたと捉えとるわけでありませんが、しかし、これから人口減少社会がまだまだ続く状況でございます。そういう中で、地域医療というのは、非常に危うい状況であるわけでありまして、我々糸魚川市にとって、地域医療は絶対なくてはならない施設であるわけでありまして、医師会の皆様方も、その一翼を担っていただいております。そういった連携をやはり糸魚川市はしっかり取っていきたいと思っております。それには、糸魚川総合病院の医師の皆様方のスキルアップ、医師の皆様方は非常にそういったことに対しては、関心が高いわけでございます。そういった研修する機会を我々もやはり支援しながら、もっともっとやはりスキルの高めを努めていきたいと思っておりますし、看護師不足については、しっかりとその辺は確保していくための、この制度なりを、また、今、学校や研修施設を目指しながら取り組んでいきたいなと思つとるわけございまして、地域医療、これからもしっかりと進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

よろしく申し上げます。

終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。再開を20分といたします。